



図1：田上城跡全体

令和7年度 田上城跡 市道改修工事に伴う発掘調査 現地説明会資料

垂水市では、市道元垂水原田線改修工事に伴い、「**田上城跡（たがみじょうあと）**」という山城の発掘調査を実施しています。

土の下に文化財が眠っている「遺跡（いせき）」は、毎年発見されたり、範囲が広がったりしています。

垂水市の中にも、たくさん遺跡があります。そんな遺跡の中で工事を行うときには、工事の前に発掘調査を行い、壊される部分を記録する必要があります。

今回の発掘調査では、「**土塁（どるい）**」や、「**石列遺構（せきれついうこ）**」などの成果があり、地域の歴史と魅力を発見することができました。

発掘調査は、十一月末まで行われる予定です。

「田上城跡」の発掘調査では、市道に面する斜面の工事予定範囲を調査しました。

実は調査前から、斜面に沿うように石が並んでいる様子が確認されてきました。石が並べられている地面の土をきれいにしていくと、広い範囲に並べられていること、平場側にも広がることなどがわかりました。

この「石列遺構」の役割は、まだはっきりしたことはわかりませんが、斜面を安定させるための「土留め」、つまり、戦国時代の土木工事の跡である可能性があります。

約五〇〇年前の工事が、今まで残っていたのかもしれませんが。



図2：石列遺構の一部

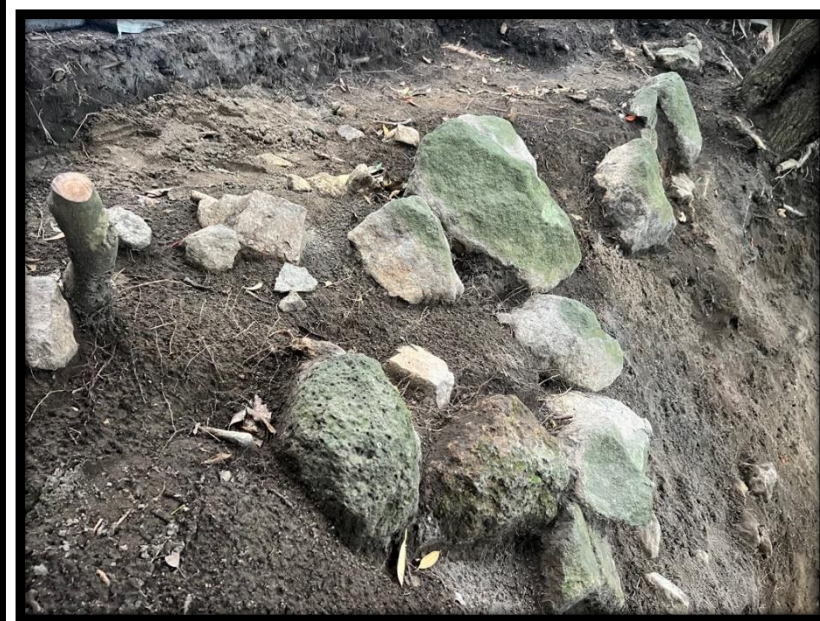


図 3：石列遺構の一部



図 4：調査区の様子



図 6：溝状遺構

今回の発掘調査は、斜面改修工事で壊されてしまう部分を記録することが目的でした。

調査面積はせまく、遺物（いぶつ）はあまり出ませんでした。が、「**石列遺構**」や「**集石遺構**」、「**溝状遺構**」などを検出しました。

田上城は、中世、いわゆる戦国時代にくられ、使用されたお城であることが、文字資料などからわかっていましたが、どんな作りをしているのか、つくられた正確な年代はいつごろかなど、わかっていないことがたくさんありました。

長く「**梶原氏（かじわらし）**」が使用していたとされますが、一時同盟関係にあった「**本城**」の伊地知氏が田上城の築城に関わっていたという記録もあり、田上城跡の「**石列**」などは、中世垂水の山城を考えると、汎用的で重要な情報となるかもしれません。

石列遺構や全体の「**曲輪（くるわ）**」など、県内で比較しても、田上城跡の残存状況は良好だと言えます。今後、慎重に調査を行い、遺跡の価値を記録してまいります。



図 7：出土遺物など